

亀田綾子さん（左）と娘の真奈さん



親しみやすいイチゴ園に

IT導入、7人子育てと両立

埼玉 秩父市 いちごハウスAYA
亀田綾子さん

【埼玉】秩父市の「いちごハウスAYA」園主の亀田綾子さん（40）

は、ハウス2棟の高設栽培であまりん、かおりんなど9品種を栽培し、娘の真奈さん（19）とパート3人で観光イチゴ園を経営。直売のほか地元スーパーやJ

A、オンラインショップで販売している。

亀田さんは、子どもが自然と触れ合う機会と、子どもとの時間を作りたいと就農を決意。2013年に秩父ファーム（株）を設立してイチゴ栽培を始めた。17年に自動かん水システム、19年に遠隔制御を導入。日照時間やハウス内温度などを測定し、減農薬で病害虫に強く、安全で安心なイチゴを栽培、県特別栽培農産

物の認証も受けている。

7人の子どもを育てている亀田さんは、「IT化はハウスと住居が離れているので、忙しいときに役立つ」と話す。子育て世代にも安心してイチゴ狩りを楽しんでもらうため、農園にベビーベッドやキッズスペースも設置した。「親しみやすく、お客さんに『来てよかった』といってもらえる農園を目指し、おいしいイチゴを作りたい」と話す。